第６号様式（第５の２関係）

議　事　概　要

会　議　名	令和８年度第１回　鹿児島西警察署協議会
会議日時	令和８年７月23日（木曜日）　午後２時から午後３時45分
会議場所	鹿児島西警察署　訓授室
出　席　者	１　警察署協議会　会長以下　12人 ２　警察署　　署長以下　13人

（会議の概要）

１　会議次第

⑴　会長挨拶

⑵　管内概況及び治安情勢に関する説明

⑶　警察行政に対する意見・要望及び諮問・答申

⑷　速度取締り指針の説明

２　委員からの意見・要望

⑴　委員から「不審者対応訓練は、依頼を受けて実施しているのか。」旨の質問があり、警察署から「学校や幼稚園、一般企業等からの要望を受けて実施している。」旨の説明があった。

⑵　委員から「薬物事犯について、中高生が巻き込まれないように西警察署が行っている対策があれば教えてほしい。」旨の要望があり、警察署から「学生に対する薬物乱用教室を実施して薬物の危険性について啓発している。」旨の説明があった。

⑶　委員から「行方不明事案について、現在も未発見の方の年齢を教えてほしい。」旨の質問があり、警察署から「未発見の方については高齢者を含む成人であり、未成年の方については発見されている。」旨の説明があった。

⑷　委員から「警察官・警察事務職員の採用試験について、年齢制限はあるか。」旨の質問があり、警察署から「年齢の上限については、36歳である。」旨の説明があった。

⑸　委員から「４月から始まった自転車取締りについて、町内会等から警察に指導を求める要望はどのくらいあったか。また、実際の活動内容について教えてほしい。」旨の質問があり、警察署から「現在のところ、町内会からの要望はないが、各企業や学校からの要望が多数あり、交通安全教室を開催するなどしている。」との説明があった。

⑹　委員から「西署管轄内における高齢者の行方不明事案（特に認知症患者の徘徊等）の発生状況について教えてほしい。また、早期発見のためにＧＰＳの装着等以外に何か方法や対策があれば教えてほしい。」旨の質問があり、警察署から「令和７年中、当署が受理した行方不明者数は142人（前年比６人増）であった。そのうち、65歳以上の高齢者は42人（前年比14人減）であり、認知症やその疑いのある方は25人であった。認知症・高齢者等の見守りネットワーク、市・消防・保健所・バス・タクシーで構成されるＳＮＳネットワークの活用や関係機関と緊密に連携をとり、行方不明者の発見活動に努めてまいりたい。」旨の説明があった。

⑺　委員から「自転車のヘルメット不着用や右側走行等を見かけるが、何か対策をとっているのか。」旨の質問があり、警察署から「街頭キャンペーンや広報啓発、自転車に対する指導取締りを実施している。」旨の説明があった。

⑻　委員から「自転車等に対する交通反則通告制度が始まったが、取締り方針等について教えてほしい。」旨の質問があり、警察署から「自転車の交通違反に対する取締り方針は、基本的に「指導警告」を行うこととしており、悪質・危険な違反については、検挙の対象とすることとしている。」旨の説明があった。

⑼　委員から「高齢者の免許返納や高齢者への交通ルールの指導徹底等を今まで以上に力を入れてもらいたい。」旨の要望があり、警察署から「運転を継続させるのが危険と判断される高齢者等に対して、自主返納した場合の各種支援制度について周知を図

るなどして、自主返納を促進している。」旨の説明があった。

⑽　委員から「鹿児島北インター入口交差点で、左折・直進の矢印信号が点灯した時、右折車の信号見落としが見られ、車両が交差点内まで進むことがあり危険である。」旨の意見があり、警察署から「当該交差点は、道路状況に応じた交通事故防止を目的として、信号機による交通規制がなされているが、今後も交通情勢等を分析しながら、より効果的な運用を検討してまいりたい。」旨の説明があった。

⑾　委員から「お茶の里を左側に見て、１つ目の分かれ道を左折した道路に歩道を設置してほしい。道路が狭く、小学生や中学生の登下校に車が通ると危険である。」旨の要望があり、警察署から「委員の要望については、道路管理者に連絡予定である。また、当該道路については、最高速度30キロの規制を検討している。」旨の説明があった。

３　諮問・答申

警察署長から「県警察では、警察官等の採用のため各種施策を行っているが、採用試験の受験者が減っていることから、受験希望者を増やすにはどうしたらよいか御意見をいただきたい。」との諮問があり、委員から「警察職員が誇りを持って仕事をされている姿や住民の声に親切に耳を傾けてくれる姿を私たちは知っているが、子どもたちはそれらの姿を知る機会がない上、警察官という職業について「大変だ」というイメージしかないのではないか。」、「現役の警察官が高校や大学等に直接出向いて、生の声を話すことによって、警察官を希望する方が増えるのではないか。」などの答申があった。

備　考	